

夏期ハウス内の昇温抑制対策による

抑制キュウリ栽培の初期生育の確保と収量の向上

対象者 抑制キュウリ栽培生産者

【普及活動のねらい】

管内の抑制キュウリ栽培は、7月下旬より定植が行われていますが、キュウリにとってこの時期のハウス内の温度は非常に高くなってしまいます。このため、高温対策として遮光資材の利用やサイド・天窓の開閉と合わせて、キュウリに直接散水して温度を下げる「葉水」が実施されています。葉水は生産者がハウス内の温度を確認し直接バルブを操作して行われていますが、夏場のハウス内の常駐が困難なことから適切な実施が出来ませんでした。そのため、初期の生育や着果の不良、品質の低下により初期収量が伸び悩んでいました。そこで、葉水の自動化を図るため温度により開閉設定ができる電磁弁（ICTバルブ）の導入による初期生育の確保と収量の向上に向けて支援しました。



ICTバルブの設置指導

【普及活動の内容】

ICTバルブの技術実証と推進

生産者の理解を深めるため展示ほを設置し昇温対策効果を間近で体験することでICTバルブの設置への誘導・推進を図りました。推進については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ集合研修等は実施せず個別にハウスへ伺い説明を行いました。

ICTバルブ設置と活用

ICTバルブを導入した農家に対し、その機能の活用方法や各ハウスの生育状況に合わせた葉水の実施時間と温度設定について支援しました。

【普及活動の成果】

推進の結果、5農家がICTバルブを設置されました。また、ICTバルブを今作導入された農家の10aあたりの収量は、導入前に比べ平均で32%増加しました。ICTバルブを活用した農家からは、曇天から急な晴天等によるハウス内の気温上昇に対し、ICTバルブが機能し高温による障害が回避できたとの評価を頂きました。予定では、9月上旬でICTバルブの活用は終了する予定でしたが、引き続き残暑が厳しいことから9月いっぱいまで活用された生産者もおられました。今後、引き続きICTバルブの推進を図るとともに設置・活用面においても支援を行っていきます。



ICTバルブの設置状況